

### 第3回南九州水産海洋研究集会

「海況情報の現状と展望～有効活用を目指して～」(速報)

渡慶次 力(宮崎水試)・宍道弘敏(鹿児島水技セ)・中村啓彦(鹿大水)  
清水 学(水研セ中央水研)・高橋浩二(JAFIC)

平成27年10月29日(木)、宮崎県企業局県電ホールにおいて、標記研究集会が一般社団法人水産海洋学会、宮崎県水産試験場、鹿児島県水産技術開発センター、鹿児島大学水産学部、水産総合研究センター中央水産研究所の共催で開催された。大学、水研、水試、行政、漁業者、漁業関係者など約80名の参加があった。本研究集会では、海況情報をテーマに、各機関から提供されている外洋から地先に至る情報と水産関係者による利用実態について紹介し、漁業者・行政・研究者間で、現状認識と問題点を整理・共有した上で、提供・活用のあり方を議論することを目的に開催された。研究集会の進行状況を以下に示す。

一般社団法人水産海洋学会長・和田時夫(代読:鹿児島水技セ・宍道弘敏)及び宮崎県水産試験場長・神田美喜夫の主催者挨拶、コンピーナー代表からの趣旨説明の後、研究発表を行った。第1部は、日本周辺海域における海況情報の提供と活用がテーマで、水研セ中央水研による海況情報収集や予測システム、JAFICによる漁業向け海況・気象情報サービスが紹介された。第2部では、鹿児島水技セや宮崎水試から漁船漁業者向け、大分水研及び熊本水研セから養殖業者向けの情報提供及び利用実態について報告があった。第3部は、中型まき網漁業及び曳縄漁業の漁業者から、漁業現場における海況情報の利用実態と要望について報告があった。

総合討論では、まず、マグロはえ縄やカツオ一本釣り等の沖合漁業、養殖業、定置や磯建網などの沿岸漁業における利用実態や要望事項を確認した。沖合漁業において海況情報は必須であること、養殖業者はよりリアルタイムの予測情報が、沿岸漁業では海底地形が重要であり、浮魚礁における携帯基地局設置の要望もあった。数値予測モデルの利用についても話合われた。情報提供や活用のあり方については、フェリーの活用、関係機関とのデータ共有、漁業種類や地区毎で必要とされる情報の集約と発信などが提案された。これらの意見交換を踏まえて、コンピーナーでは、海況情報の有効活用に向けて我々ができることを整理した。漁業者は海況・気象情報の積極的な利用、海況データ提供などの協力が必要であり、情報提供機関は現場ニーズに応じた提供、海況と水産生物等の関係解明、周知や利用促進に向けた取組み、各機関の協体制強化の必要性を確認した。

---

#### 1. 日本周辺海域における海況情報の提供と活用

「水産総合研究センターの事例～海況情報収集・予測システム等～」

清水 学(水研セ中央水研)

「JAFICの事例～漁業向け海況・気象情報サービス等～」高橋浩二(JAFIC)

#### 2. 南九州各県海域における海況情報の提供と活用

「鹿児島県の事例～フェリー情報等～」小路口拓輝(鹿児島水技セ)

「宮崎県の事例～浮魚礁・漁船情報等～」林田秀一(宮崎水試)

「大分県の事例～赤潮監視と漁業被害軽減～」宮村和良(大分水研)

「熊本県の事例～環境調査・赤潮モニタリング等～」多治見誠亮(熊本水研セ)

#### 3. 漁業者の目線

「まき網漁業による海況情報の利用」宇戸田実也(北浦漁協)

「曳縄漁業による海況情報の利用」 村本秀則（日南市漁協）  
4. 総合討論

---

最後に、本研究集会の開催にあたりご協力頂いた講演者を含む多くの方にお礼申し上げるとともに、ご支援頂いた宮崎県水産試験場、鹿児島県水産技術開発センター、鹿児島大学水産学部、水産総合研究センター中央水産研究所、一般社団法人水産海洋学会に謝意を表す。

